



会報



DISTRICT 253
CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

鶴岡ロータリー

THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

き く

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 P.M 12:30 - 1:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 5775

会長 鈴木 弥一郎
幹事 中 江 亮

Service. I believe in Rotary.

奉仕・ロータリーを私は信奉する。

第 875 号 1976. 9. 28 (火) (くもり) No.13

— 本日のプログラム —

1. 点 鐘
2. ゲスト・ビジター紹介
3. 会長報告
4. 退会挨拶～今野成行君
5. 幹事報告
6. 委員会報告
 - (a) ボランティア・グループ研究会と中・高校生英語弁論大会に出席して～
山本正青少年奉仕委員長
 - (b) 交換学生(ダイアン)の近況について ホスト 石黒慶之助君
 - (c) 出席報告～出席委員会

■ ゲスト・ビジター紹介

桜井瑞男君、林権之助君—鶴岡西R・C

■ 会長報告

- ① 去る22日に山王閣に於て新会員の方々の歓迎ファーマーミーティングが開催されました。三井ロータリー情報委員長さんの司会で、5大部門の各委員長さんより各部門についての熱心なる解説があり、親睦の中に実の多い会合であったと思います。
- ② 当クラブ会員の今野成行君が急に山形相互銀行本店に御栄転なされる事になりました。誠に名残り惜しい事です。長い間各部門について御活躍を戴いた事は感謝に堪えない次第で厚く御礼申し上げます。何卒今後益々御健康で御活躍されるよう御祈り申し上げます。
- ③ 西海正一君 S・A・A所属

■ 退会挨拶 今野成行君

只今御紹介いただきました通り、この10月1日付をもって本社融資部勤務を命ぜられ赴任することになりました。

ご覧の通り、産業界は一層の厳しさを増す中で、全店45ヶ店の融資先企業の相談に応じる立場となりますが、「転ばぬ前の杖」となる覚悟でそれぞれの企業の永続繁栄のためがんばりますので、今後ともよろしく御助言下さいますようお願いいたします。

顧りみますと、45年4月より6年半に亘り当地にお世話になり、鶴岡ロータリークラブには5年間、先輩諸氏より御教導をいただきました。その間生涯に得がたい道縁を多くの方々と結ばせていただき本当にしあわせな男です。厚く感謝申し上げます。

庄内には他所で見られない庄内の生きた教学がございます。その活学にふれる機会を得ることが出来ましたのも誠に有難いことで、これからの人生の大きなささえとなることを確信しております。

あなたの故郷はどこですか？と問われれば、自信と誇りをもって庄内鶴岡です。と答える気持です。いや、そう偽って答えるでしょう。

私は本当に鶴岡が好きでした。皆さん本当にお世話になりました。山形にお越しの節は是非お立寄り下さいませようお待ちしております。私も魚釣に時々まいります。

なお、後任の高橋耕二は天童出身で私の一年後輩の男です。私同様よろしく願いたします。

■ 幹事報告

例会変更案内

酒田R・C～場所変更～宮の浦カントリークラブ

会報到着案内

八戸R・C、八戸東R・C

駐車料金～例会、理事会の時に限り一率100円

■委員会報告

<第8回鶴岡市学生“ボランティアのつどい”に参加して>

青少年奉仕委員会委員長 山本 正君

日時 昭51.9.15(水) 9:30~16:00
場所 県立鶴岡北高等学校
主催 第8回鶴岡市学生ボランティアの集い実行委員会
後援 鶴岡R・C、青い鳥の会、鶴岡地区BBS会、R・C出席者
阿部裏君、山本正君

プログラム

1. 開会のあいさつ
2. 各サークルの現状報告
3. 活動の中から
4. 映 画
5. 分 科 会
6. 昼食、休憩
7. レクリエーション
8. 全 体 会
9. 講 評
10. 次回事務局選定
11. 閉会のあいさつ

参

- | | |
|-----------------|----------|
| 加 校 | |
| 1. 高専インターアクト | 19名(会員数) |
| 2. 家政専門学校つくしクラブ | 5名(ク) |
| 3. 家政高若竹の会 | 14名(ク) |
| 4. 西高インターアクトクラブ | 18名(ク) |
| 5. 工業インターアクトクラブ | 17名(ク) |
| 6. 鶴岡商業高校つくし会 | 13名(ク) |
| 7. 北高松ポックリの会 | 20名(ク) |

感

どのクラブも施設の訪問、街の清掃などやっている。何かやって、あとで感謝されるのがうれしくて運動をつづける意欲がわいてくるといっている。ただ、こうして集まると大ぜいのボランティアがいるのにお互に顔を知らないとか、施設へ行っても、施設の日課があって手出しする余地がなかったり、何か喜ばれなかった事などもあるようで施設側のニーズと訪問者の目的が一致しない事の多いような印象を受けた。

ボランティア活動をつづけようとして一生懸命になっているがどうしたら一番よいのか迷っているようである。部員も仲々集まらずこの点も悩みのようである。

同席された阿部先生のご意見も指導教官をロータリーが中に入れて集まってもらい、方向性を持たせたらよいのではないかということであった。

ロータリーも“つどい”の昼食の援助だけでなしにこの運動が消えてしまわないようお手伝いをする必要があると感じた。

<第28回田川地区中学・高校英語弁論大会に出席して>

日時 昭和51年9月18日(土) 9:00~14:30
場所 鶴岡青年センター

当クラブは後援団体の一つとして例年優勝者にトロフィーと賞状を贈ることになって

いる。今回も鈴木会長と山本が出席した。

この大会には中学校の部で25名、高等学校の部で4名計29名が参加し熱弁を振り、午後1時半過ぎに全員のスピーチが終了し、その後審査の結果

中学の部の1位は“Why do we study English”の題名でスピーチをした鶴三中小池ヒロタダ君に

高校の部の1位は“My English learning”の題名でスピーチをした工業の木村秀雄君に決定し、それぞれに鈴木会長からトロフィーをお渡しして来ました。

<Diane Meta Schultzをお預りして>

ホストファミリー 石黒 慶之助君

去る8月21日、Diane嬢をお引き受けしてから早くも1ヶ月有余になります。彼女は高橋国際奉仕委員長、嶺岸青少年交換委員長を初めとするわがクラブの皆様の暖かいご支援により、当地の生活にも大部馴れてまいり、毎日元気で鶴岡工業高校に通学しております。

Diane嬢は初め日本の生活に戸惑い、精神的にも不安と緊張が続いたようですが、鶴工高の阿部清三先生やうちの若夫婦との接触により、自分の立場を理解するようになり、最近は大変落ついてまいりました。

さて、彼女の近況をご報告いたしますが、私なりに観察した彼女の特徴を交えてお話し申し上げます。

(1) 彼女は立派な大人であります。今まで受けた3～4人の交換学生の中で最もしっかりした信念の持主のように思えます。ホームシックやノイローゼなどの心配は要らないようです。心身共に健在です。

(2) 彼女は日本への関心が強く、日本の生活に積極的に溶け込もうと努力しています。来日する前から日本の風習や歴史、文学、芸術などを或る程度勉強し、箸の使い方までおぼえて、アメリカから箸を持参したぐらいであります。

また、宗教についても在日中はホストファミリーの宗教に従うという考え方があります。私の家は旧い家屋なのでお風呂もトイレも洋式になっていませんが、彼女はこれを嫌わず使ってくれます。食事のことは別に申し上げますが、好んで日本食に馴れようと努力して居り“洋食よりも日本料理の方が美味しい”とお世辞を云って居ります。

(3) 日本語はまだまだ難解のようです。彼女の日本語は「おはようございます」「こんにちは」位の挨拶ですが、単語は大部おぼえてまいりました。私の英語は仲々通じません。

Barbara嬢の場合は、初めの3ヶ月三井先生のお宅で訓練を受けてからお受けしたので、私の英語も通ずるようになりましたが、今回全然駄目です。しかし彼女は高校時代250名中 常に1～2番の成績をあげて来た秀才ですから日本語も早く覚えることでしょう。

彼女の現下最大の願望は「早く日本語(“ごちそうませ”“おはようございます”“行ってまいります”“おいしい” etc)をおぼえ日本の生活に馴れること」のようであります。

(4) 食事には一寸戸惑っております。彼女は先ず少食であること、肉食主義(?)であることです。私の経験からすれば米国人は肉食を好み、バターくさい食べ物、パン、牛乳などが常食と考えておるわけですが、予想を完全に裏切られました。ビーフステーキを出しても、すき焼き、豚カツ、シチュー、ハンバーグなどにしても殆ど箸をつけません。フォークやスプーン、ナイフは不要で、箸だけを使います。

最初の3週間位は、朝は紅茶一杯(砂糖無し)か水を飲むだけ。お昼は学校で

パンや牛乳を飲まずに、朝家内が用意する生人参1本と果実1個位を食べるだけ。ジュースやコーラ、サイダーなども飲まず、水だけを飲みます。夕飯は私の家族全員で会食しますが肉料理は食べず、スープ、生野菜と少量の御飯と味噌汁1杯位。菓子も好まず果実は少量食べます。コーヒー、アルコール類は絶対飲みません。しかし日本料理は好奇心をそそののか小量ではあるが食べてくれました。これではカロリーがどうなるのか、病気にならないだろうかと心配しました。最近になって判ったのですが、彼女は4年位前から家族そろって菜食主義者になっており、アメリカでも肉類は余り食べなかったこと、更に日本を理解するには日本食に馴染むことであると決意していることであります。そのためか、最近になってから和食の方は好んで食べるようです。そしてその量もだんだん多くなり“日本料理は好きだ”と云って魚類、えび、かになどを食べてくれます。大切な交換学生をお預りしても、これを栄養失調にさせては申し訳ないと思いましたが、蛋白質を摂ってくれるようになり、やっと安心している次第であります。

- (5) 日本に来てからの友達について。まだ仲のよい友達は来ていません。彼女は大人のせいか或は言葉が通じないのか学校内の交友関係は不十分であります。しかし学校では阿部清三先生がよくお世話して下さいるので、そのうち沢山の友達が出来ると思います。
- (6) 今までの学校外の活動
- 8/29 (日) 酒田、本間美術館、並に日本庭園の見学。
抹茶を喜んで飲む、活魚料理を味合う。
 - 9/1 (水) ~9/6 (月) 鶴岡工高修学旅行に参加、京都、大阪方面見学。
高橋校長先生が特に気をつけてご馳走された様子。
最も楽しかったのは宝塚歌劇だった由、スライド写真沢山撮影している。ホストファミリー各員にお土産頂く。
 - 9/8 (火) 三井徹君よりの招待宴に参加。
奥様の手をこめた美味しい洋食でしたが、野菜ばかり食べ肉類は余り食べなかった。しかし彼女は非常に楽しかったと言う。
 - 9/12 (日) インターアクト生徒の歓迎会に出席。
 - 9/15 (水) 敬老の日、82才の母と共に家族全員で温海温泉に行き温泉に入り、日本料理を食べる。大浴場にも抵抗なく入り、刺身、かまぼこ、焼魚、鍋物、豆腐、こんにゃく、もんぞくまで名前をメモしながら、殆ど全部箸をつける。この頃から食事も進むようになる。
 - 9/19 (日) 若夫婦、羽黒山、高館山、湯野浜などへドライブに誘う。
 - 9/23 (水) 秋分の日、彼女の希望により寺廻り、お墓詣りにつれて行く。彼女はローマカトリックであるが日本の仏教にも興味あり、珠数をかけ賽銭をあげて拝むことをまねる。
 - 9/24 (金) 県英語弁論大会に参加のため阿部清三先生の車で木村日出夫君外1名と共に東根に出張、一泊する。大会では木村君が鶴工高始めて以来のよい成績で3位に入賞する。
 - 9/26 (日) カウンセラー高橋良士国際奉仕委員長につれられ余目町鯉川さん宅に招かれる。

そのほかの日課として毎週月曜日夜は阿部清三先生の英会話教室、土曜日は午後伊藤久美さんと共に家内の指導でお茶の練習、夜は孫達と共に教会の英語劇の練習に出かけます。また炊事の手伝いの後仕末など進んで協力してくれます。

10月半ばから嶺岸君の奥様のところに生花の稽古に通う予定であります。

- (7) 今後の予定として、本日は山形大学留学生ウィリアム・ケリー夫妻を招き家でパーティーの予定。10月15日(金)には余目R・C例会に 私と共に招待を受けています。

以上、交換学生 Diane Schlutz の近況を申し上げましたが、交換学生を受け入れるためには、クラブの物心両面の負担が多く、これにたずさわる役員各位は大変ご苦勞をおかけ致します。然しながら、それ以上に良い事も沢山あると思います。クラブ自身の国際理解と国際親善にプラスとなるばかりでなく、地域社会にも貢献するところ多いようです。特に大きな利得はホスト・ファミリーに与えられます。交換学生をお受けすることにより、見も知らぬ外国人に愛情をおぼえ、その国への関心が深くなり、異人種への偏見が是正され世界が広くなり、人類はすべて仲良く好意を持ちたい気持ちになります。交換学生は言葉が通じなくとも互に信頼出来るようになり、家族の1員として団欒出来ます。これは奉仕活動に対する褒美であり、ロータリアンの特権であると感謝しております。

今まで当クラブではアイリン・エヤハート (S.41~42)、鶴岡西 R・C のリーナ・マリール・レイン (S.42~43)、バーバラ・クレマー (S.49~50) と今回のダイアン・シュルツ (S.51~52) の4名の交換学生を受け入れていますが、いずれも特定の会員だけがホスト・ファミリーになっています。個人のロータリアンとして国際奉仕活動に直接参加出来る絶好のチャンスとなりますので、今後は新しいホスト・ファミリーの希望者が沢山現われるようご期待申し上げます。

<駐車場使用についてお願い>

商工会議所の御好意により駐車場使用について次の様になりましたので御承知の上御利用下さい。

1. 駐車料金は例会、理事会の場合に限り一律100円となります。
2. 駐車される時は「鶴岡ロータリークラブ」のゴム印を受付で頂いて下さい。
3. 但しゴム印のないものについては普通料金となります。

<スマイル>

鈴木薬局店舗新築落成によりスマイルを頂きました。

<出席報告>

本日の出席	会員数	74名	欠	五十嵐(三)君、五十嵐(伊)君、板垣(俊)君、海東君、玉城君、上林君、風間君、三井(徹)君、中野(清)君、齋藤(栄)君、佐藤(昇)君、笹原君、菅君、佐藤(宇)君、清水君
	出席数	58名	席	
	出席率	79.45%	者	

前回の出席	前回出席率	73.97%	メ	石黒君—東京西北 R・C 五十嵐(伊)君—佐賀西 R・C 笹原君—仙台 R・C 安藤君、森田君、角田君、中野(清)君、佐藤(友)君、新穂君、板垣(広)君、横山君、手塚君、中村君—鶴岡西 R・C
	修正出席数	67名	ッ	
	確定出席率	91.78%	ク	

<会報委員会よりお願い>

- 毎回会員各位にお願いしているように、スピーチ等の場合、原稿又は要旨(箇条書きでも可)を提出して頂くと、省力化が計れますので、御協力下さい。
- 各委員会の委員長の皆さん!! 委員会報告用紙がありますので、御利用下さい。
- 原稿、要旨、報告事項はスピーチ等終了後、直ちに会報委員にお渡し下さい。
- 写真は印刷の関係上なるべく白黒でお願いします。



会報

DISTRICT 253
CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

鶴岡ロータリー

THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA



月 見

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 P.M 12:30 - 1:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 (2) 5775

会 長 鈴 木 弥 一 郎
幹 事 中 江 亮

Service. I believe in Rotary.

奉仕・ロータリーを私は信奉する。

—— 特 集 号 ——

ロータリー情報・親睦活動委員会共催

第1回 ファイヤーサイド・ミーティング

昭和51年9月22日(水)

17:00 より

於 山 王 閣

(昭和51年 月 日 発行)

挨拶：三井 健 ロータリー情報委員長

兼ねてからこの計画の必要性を考えておりましたが、今日迄クラブの内外の大きい事業活動に時間を取られ、漸く実現出来た次第です。本日は特に親睦活動委員会と共催して新しく会員となられた諸君の歓迎懇親を兼ねて情報の研究をしたいと考えています故五つの奉仕委員会委員長の説明の後自由に質疑応答の形で進めていただきたい。

挨拶：鈴木 弥一郎 会長

マンチェスターR・I会長の奉仕のメッセージを踏まえ、私の年度初め就任挨拶で申し上げた“ロータリーの原点に戻って友情の輪を拡げ、親睦を深めたい”と云う方針を考慮されて十分に意義のあるファイヤーサイド・ミーティングで終始されることを希望する。

解説：(要約) 上野 三郎 クラブ奉仕委員長

クラブ奉仕委員会に属する11特定委員会の任務と活動の仕方について詳細に指摘され、就中S・A・Aは委員長が役員になって居る程重要なポストである故、例会に限らずクラブが行う各種の会合に出席委員会と協力して、格段の工夫研究をされる様お願いする。更にクラブ奉仕は所謂クラブ内部の総務的な奉仕活動をするものかと考えるが会員相互間の友情親睦を増進させ、それから外部の奉仕活動に発展するものであって、決して青少年に対する奉仕活動とか、その他の奉仕活動を優先させる為にクラブ奉仕活動がなされるものではないと云う認識をして頂きたい。

解説：三井 賢二 社会奉仕委員長

固定的なルールについて説明申し上げるよりも私が、過去会長時代又は各地区協議会及びインター・ローターの地区大会から得た情報、経験から次の事を申し上げたい。

- ① 社会奉仕活動は予算がなければ無理してやるものではない。しかし計画した事はその年度内に必らず実行するべきである。
- ② クラブが過去に於いて実行した諸々の奉仕活動が、その時に金を出して実施した後、

その追跡を怠っているのではないか。

例えば交通安全指導車、噴水の寄付をした後、それが活用されず、又一部休眠している実態を調査すべきではないか。或るクラブで社会奉仕の為に市に巨額の資金を寄付したところ、2、3年経っても活用されず市の金庫に眠っていたと云う例を考える時、我々は社会が我々に何の奉仕を求めているかを研究すべきであり、安易な方法は取るべきではない。

- ③ 禿山に多くの植樹をしたために今では山一面が緑に包まれていると云う事例は誰が見ても素晴らしいものであり、奉仕に継続的な価値があったと云えよう。
- ④ 総括して言えば、本年度の当クラブの予算は大きな外部事業のために苦しい状態にある為社会奉仕活動のあり方は、新規の支出を要するものをさけて過去の奉仕の実態を追跡調査し次年度に役立たせたい。

解 説：小 松 広 穂 職業奉仕委員長

職業奉仕委員会とは

職業奉仕は会員がロータリークラブにおいて、一つの職業分類をもっている事から生ずる当然の義務でありまして、又これが他の奉仕団体と大きく異なる特色であり、個々のロータリアンにとっては日常行なわなければならない事があります。そして自分の仕事に職業奉仕を適用する事をおしえる事であり、それを奨励する事が、職業奉仕委員会の活動であります。

従って特に綱領第二項の「実業及び専門職業の道徳的水準を高める事……………」

「奉仕こそわがつとめ」を熟読、或は先輩の編纂になるロータリアンの職業奉仕事例集等を参考に自分の職業行動の起点に際しての規準にせらるる様御奨励します。

解 説：高 橋 良 士 国際奉仕委員長

特定4委員会の概要について説明されたが

- ① 財団についてはその活動に

大学院課程 大学課程 } の4奨学金制約があり、之を教育補助金と云う。
専門的訓練 教師 }

尚此の外にG・S・Eの補助金がある。

但しロータリアンの子弟及一定範囲内の親属は資格がない。

- ② 国際青少年交換～今年はアメリカ、オーストラリアに限らず、東南アジア、フィリピン、ヨーロッパ等広域に亘り交換され、その数も年々増加している（ロータリアンの子弟も資格がある）
- ③ 世界社会～なかなかむづかしい仕事で之は国家間の援助活動とも云うべきものですが、飽く迄も相手国のある地域に対する援助活動をその地域のロータリークラブが提唱する事に依り、他の国のロータリークラブが共鳴して援助に協力するもので、当然 R・I に登録されている援助項目に関連がある。
飢饉救済、防疫、食糧生産その他がこの対象となる。
- ④ 国際親睦活動～海外の Sister-club との間に親善理解を深める為め各種の交流を増進させるものでクラブ対クラブのものと R・I の提唱に基く地区対地区のものがある。

解 説：山 本 正 青少年奉仕委員長

- ① 青少年奉仕ではボーイスカウト・ガブスカウトの活動に激励援助を与え、又ボランティアグループ、そして中、高校生徒の英語弁論大会援助、盲学校若葉会、尚亦ユネスコに対し青少年の未来に光明を与え、それらを立派な社会の一員として育成することに協力する。
- ② インターアクト、ローターアクトの定義と目的及びそのクラブ数等詳細な説明があり、就中両地区大会を通して彼等が如何によく強勉し、如何によく活動し、如何に相互を理解しておられたかに強い関心を持たれた事を強調された。

楽しい例会への提案

ロータリー情報委員 石 黒 慶之助

本日のミーティングは、各委員長の蘊蓄ある解説により例会では聴取出来ないロータリーの勉強になったと思います。しかし新会員には少々難解な高度なお話ではなかったでしょうか。

私の考えでは、ロータリーの第一歩は先ず例会に必ず出席することと考えます。

新会員は例会に出席することにより会員と仲よくなり、諸種な会合例えば今日の会合、各委員会のミーティング、インターシティフォーラム、地区大会或いは地区協議会などに進んで出席することにより、ロータリーを知ることが出来ます。他のクラブの例会にメークアップすることも勉強になります。更にロータリーでは毎年指名受ける役職の交代により各部門を深く勉強させられるように出来ています。入会当時、ロータリーは判らないのが当然であり、何もあせることはありません。

ロータリーは宗教にあらざる宗教であるとか、或は実践哲学とか謂われ、70年の歴史によって築き上げた真に深遠な奉仕の理想を目標とした団体でありまして、私は一生かかってもロータリーを判らずまいに終るのではないかと心配しています。しかしロータリーの魅力により常に前進したい、目標に接近したいと努力を続けておると信じ、気長がにゆっくり、手を取り合い肩を並べて例会に欠さず出席することがロータリアンとなる近道であると思います。

そこで創立18年目になるわがクラブの例会をもっと楽しくする方法はないでしょうか。と皆さんと共に考えてみたいのです。新しい会員が喜んで出席出来るような楽しい例会にするにはどうしたらよいか。

私は上京のため例会欠席となりましたので9月20日(月)東京西北R・Cにメークを致しました。その状況を報告申し上げ例会改善の参考資料にして頂きたいと思います。東京西北R・Cは、鶴岡R・Cよりも1年先に出来たクラブであります。会員数136名、財団寄付率は1800%、出席率は62%~75%で修正しても90%前後で決して良い方ではありません。会場は京王プラザホテル42Fホール、登録料は2,400円で、当日の食事は幕の内弁当であり本R・Cの食事より良いところは無いようでした。都会のクラブであり洗練された明るさがあり、ビジターに対しても相当気をつけています。

テーブルは10人1組位の円卓で、10数個並んでおり、食卓毎にテーブルマスターが居ります。ビジターは何処の円卓に座ってもよいとのことでした。各テーブルにはそのテーブル専用のビジターメモがあり、これに氏名、職業、クラブ名などを記入するようになっていました。テーブルマスターは点鐘の前にこのメモにもとづきビジターを仲間にジョークを交えて紹介します。例えば“この方はただ今問題になっている歯科医で鶴岡R・C会員の石黒慶之助君です。しかし石黒君は仁医です”。などと発表します。円卓は笑いにつつまれビジターも緊張がほぐれるわけです。そしてビジターにも会話のチャンスを与えることになります。点鐘後直に食事を行い、10分後位から食事中にビジター紹介、幹事報告、各委員会の会務報告等20分間で終え、スピーチの時間を30分間充分にとるようにします。

会務報告の一部は会報を活用して、例会の発表は簡明になるよう考えているようでした。

当日のスピーチは、住友生命専務、千代賢治氏（会員）の「平均寿命の歴史」という演題で、30分間ゆっくりお話されました。その内容は、「現在わが国の平均寿命は男が72才、女が77才になって長寿国の仲間に入っている。先進国で平均寿命が70才以上に達している国は7ヶ国しかない。縄文時代には平均寿命は17才前後と推定され、江戸時代になっても23才位だったようである。わが国の平均寿命が高くなって来たのは最近100年間位の短期間であり、今後は幾才まで延びるか推定出来ないが、まだまだ長寿となりましょう。私共は長寿を念じ“心にゆとりある生活”を考えましょう。」というスピーチでありました。

東京西北R・Cは私共のクラブと創立年月や出席率、財団寄付率などが似かよっておりますが、何か洗練され、あかぬけのした楽しい例会を持っているように感じました。例会を楽しくする方法は全会員で考えねばならない重要課題であり、改善方法も沢山あると思います。